

「暮らしの安全モデル校指定事業」事業実施報告書

モデル校指定校名 : 飛騨市立古川西小学校

1 事業の実施期間 指定を受けた日から令和2年3月2日

2 学校の概要

学校名	飛騨市立古川西小学校
学級数	通常学級：12学級、特別支援学級：2学級
児童生徒数	300人（令和2年3月1日現在）
URL	http://www.school-hida.jp/furunishisho/htdocs/

3 調査研究のテーマ

内容「D 身近な消費生活と環境」において、米作りを通して、生産・加工・流通の仕組みを学習し、身近な消費生活や環境をよりよくしようと工夫する能力を育成するための指導と評価の研究開発

4 調査研究の内容等

(1) うるち米の生産・加工・流通についての指導計画の作成

生産・加工・流通それぞれについて、消費につながることを意図して指導計画を作成した。

- ①生産 田植えから脱穀までの生産計画と作業実習
「食味のよい米を生産する作業の工夫と体験」
- ②加工 収穫米の加工方法についての学びと作業実習
「地域に伝わる加工の種類についての学びと体験」
- ③流通 収穫祭を通して、食味の鑑賞と流通実習
「家族とともに食する体験・食品の購入時の注意」



(2) 地域指導者（米生産農家）との連携の在り方

米生産農家に、指導の意図を理解してもらうとともに、米生産農家の思いを児童の学習意欲喚起につながるように、打合せの方法や内容、指導内容について工夫した。

(3) 学習過程の工夫

米生産を支える環境づくりや作業での人との関わりを通して、仲間との協力、地域の方とのつながり、自分たちの暮らしが多くの方と関わっていることを学びながら、自己をみつめ、他者を思いやる心の育成につながるように総合的な学習の時間、特別の教科 道徳との関連を図った。

また、実際の消費者生活で実践できるように、栄養職員による「食の安全について」の授業を位置付けた。



時 期	内 容	備 考
4月9日	研究推進会議開催 ・研究計画と見通しについて ・地域指導者（米生産農家）との連携について	参加者5名
5月8日	地域指導者（米生産農家）との事前打ち合わせ	参加者4名
5月9日	米生産農家の1年間の活動と食の安全に関わる学習会	
5月14日	苗づくりの見学	
5月21日	代かき作業	
5月27日	田植え（保護者参加）	
5月～9月	水の管理・稲の生育記録	
9月25日	稲刈りとはさがけ（保護者参加）	
10月10日	脱穀	
10月14日	学習発表会準備	
～	個人課題追究	
11月30日		
11月31日	収穫祭（保護者・地域指導者参加） ・いろいろな加工（調理） ・食味鑑賞 ・学習発表 ・米（加工品）販売	
12月10日	学習発表会（対象：4年生）	
12月16日	地域の方への「花餅」届け	
3月2日	栄養職員による「安全な食品のかしこい選び方について」の学習 ・授業前後のアンケート	

5. 調査研究の成果と課題

児童は、1・2学期に行った米作り体験により「作った米はその後どうなるのか」という疑問をもち、社会科学習や総合的な学習の時間において、課題追究に取り組んだ。

また、身近な生活と米（食品）についても目を向け、「安全な食」についても関心をもった。（児童の行動観察・個人追究の記録による評価）

「食品を買うときにどんなことに気を付けていますか。」という問いに対して、学習前は、「価格」「見た目」「味」を挙げる児童がほとんどで、「安全」の項目を挙げる児童が32%だったのに対し、学習後は、100%の児童が「安全」の項目を挙げた。（質問紙調査）

また、記述から、価格や味も大切だが、包装等の表示を見ながら安全に気を付けて購入したいという思いも把握できた。

今後は、消費者生活の実践に向けて、家庭科での位置づけ、学習内容の家庭への発信や実践に向けた連携を図りたい。